

## ◆風景画の誕生◆

江戸では天保期に入り、北斎や広重による名所絵組物が流行し、役者絵と美人画に遅れながらも浮世絵の主要分野として成長していった。この頃、大坂でも江戸の影響を受けて風景画が誕生するが、具体的な契機は「天保山」と考えられる。

大坂町奉行所は大坂三郷市中通船の便を図るため幕府に誓願し、天保二年（一八三一）三月八日に、安治川の大浚えに着手し、翌十二月に工事を完了した。その時に出土した土砂で造った人工の小丘が「天保山」であった。（中略）大坂の版元塩屋喜助は、上方に旅していた江戸の浮世絵師岳亭春信に依頼し、天保山を描いた浮世絵を製作した。

（『上方歌舞伎と浮世絵』241頁から）

## ◆大坂と京都の浮世絵◆

江戸の影響を受けながらも独自の画風の錦絵を生み出したのは大坂であった。京都は伝統に基づきながら、近世には新しい時代の絵画が次々と生み出されていったが、伊藤若冲や曾我簫白、円山応挙や呉春の円山派や呉春の四条派など、京都を代表する絵師は基本的には肉筆を残している。大坂では量産化によって大衆的絵画となり得た錦絵であったが、古都京都には馴染まなかったのか、その製作はほとんど見られない。しかし、京都では浮世絵版画は合羽摺と墨摺で親しまれていた。

（『上方歌舞伎と浮世絵』251頁から）

## 北川 博子 さん 略歴



大阪女子大学学芸部国文科卒業  
大阪女子大学大学院文学研究科国語学国文学専攻修士課程修了  
甲南女子大学大学院文学研究科国文学専攻博士後期課程単位取得退学  
大阪府立大学にて博士（言語文化学）取得  
現在 あべのハルカス美術館 主任研究員

著書『上方歌舞伎と浮世絵』（清文堂）  
編著書『菅専助全集』第1～6巻（共編、勉誠社）  
『歌舞伎大長集成』第27、38、41、43巻（共編、勉誠出版）  
『薄物唄本目録』（阪急学園池田文庫）など多数

※本講演会に際して、障がい等の状況により、配慮が必要な方は事前にお知らせください。

【問い合わせ先】大阪府立中央図書館総務企画課

〒577-0011 東大阪市荒本北1丁目2番1号

TEL 06-6745-0170 / FAX 06-6745-0262